

## ルポルタージュ

### なぜ若者は「複数のTwitterアカウント」を持つのか

早稲田大学政治経済学部政治学科  
映像ジャーナリズム・高橋恭子ゼミナール  
4年高橋智香

#### 概要

若者の間で、Twitterの複数アカウント所持が「当たり前」になりつつある。広告系シンクタンク・電通総研は、10、20代の男女の約半数がメインで使うアカウントに加え、サブアカウントを1つもしくは2つ以上持っているという調査結果を発表した。

「複数アカウント所持」の理由について、専門家やジャーナリストの間では議論がなされている。日常生活で「本音」が言えないからサブアカウントを作る、日本特有の匿名文化にルーツがある、など内容はさまざまであるが、共通しているのはメインアカウントで発信できないことをツイートするためにサブアカウントを作っている、との考察だ。

しかし、若者たちは本当にメインアカウントで言えない「本音」を発信するために、複数アカウントを利用しているのだろうか。小説家・平野啓一郎氏が提唱する分人主義（対面する相手や環境によって、態度や言動が変わるのは当たり前とする主張）のように、発信対象によって異なる「自分」を使い分けしているという可能性もあるのではないか。第一章では、実際のデータを交えつつ、本ルポルタージュで明らかにしたい仮説を提示した。

第二章では、複数アカウントの所持に関して筆者が行った約2000人を対象としたアンケートおよび筆者の知人を中心とした20人の10,20代男女にデプスインタビュー結果を記載した。また、取材を通して得た彼らの「生の声」から、アカウント使い分けの実情を記述した。

続く第三章では、インタビュー結果をもとに複数アカウント所持の理由を分類して述べた。大別すると、「①機能的使い分け」「②人目が気になる」「③交友関係の整理」「④変身/覗き見欲求」の4つである。第二章で述べた「分人主義的」な使い分けは、「③交友関係の整理」に当てはまると考えられる。

ルポルタージュ最終章ではインタビューを通して印象的であった発言をいくつか取り上げ、複数アカウントについての新たな示唆を提示した。ここでは、複数アカウントにおける「マナー意識」や若者たちの「オンライン、オフライン空間の捉え方」について、実際の発言や事例をもとに考察している。以上、本ルポルタージュは複数アカウントの利用の実態と動機を考察し、若者たちのデジタルコミュニケーションにおける特性を理解するための一助を示したものである。